

日曜寺子屋家族塾 の取り組み 5

古川 秀明

◆仲間が集まる

山口広美

山口は現役の中学英語教師。キャリアも長い。私と中井の考えに賛同し、参加することになった。授業だけではなく、広報、会場の手配、会計、書記などのこまごまとした事務仕事も全て引き受けてくれた。これらの仕事は結構大きなエネルギーを使うので有難い。英語だけではなく、アロマを使った親子実習や国語など、家族で学べる授業を企画した。どの授業も好評で、あつという間に時間が過ぎて行った。

寺島優里

寺島は保健師。幼稚園に通う娘を持つ子育て中のママでもある。読み聞かせが得意で、その声に大人も子どももひきつけられる。保健師としての知識を活かし、毎日の献立におけるカロリーや栄養バランスの重要性を、遊びやゲームの中に取り入れながら、家族全員に食の重要性をレクチャーする。子ども中心の献立は大人にとってかなりカロリーオーバーになる可能性があるなど、日常生活では学べない知識が増えた。

山田進治

山田は現役の臨床心理士。心理学をおもしろおかしく家族にレクチャーしていく。性格診断などの心理テストを実際に家族にやってもらい、難しい分析を

わかりやすく家族に解説して、こころという実態のないものをより家族の身近に感じれるような授業を展開。写真や絵を使った授業は子どもたちにも人気がある。また、山田自身が持つ、どこかユーモラスで飄々とした雰囲気に参加した家族の気持ちを和らげている。

小西賢宗

個人契約家庭教師「Kスタディ」を主催するプロの家庭教師。教科を問わず勉強を教える技術に卓越している。特に理数系に強く、算数の授業はそれを見学する講師も夢中にさせる。囲碁の有段者でもあり、囲碁を通じて、先を読む力や論理性、直観力など、コンピューターゲームとは違うおもしろさや興味を子どもに教えることができる。スケジュールが合わず、参加できないことも多いが、家族塾のイベントには必ず顔を出してくれる。

◆授業予定

講師が揃い、授業のプログラムをみんなで考えた。授業時間は午後1時から5時までの4時間で、ひとつの授業が終わる度に10分程度の休憩をはさむことにした。毎回、中井の仮説実験授業（科学）の2時間と私の家族理解、勉強する意味（道徳）の授業1時間は欠かさず実施。残りの1時間を他の講師が1時間あるいは30分ごとの交代で授業を受け持つことにした。例えばこんなスケジュールになる。毎回山口、山田、寺島、小西が交代で授業を受け持つ。

- 1時から2時50分 科学（中井）
- 3時から3時30分 英語（山口）
- 3時30分から4時 心理学（山田）
- 4時10分から5時 道徳（古川）

◆アンケート調査

一日の授業が終わると、毎回参加者にアンケートを記入してもらった。授業を受けたあとの家族の変化を数字や言葉により可視化するためだ。親だけではなく、幼児や低学年の子どもにも答えやすいグラフやイラストなどを使って工夫し、時系列による統計を取り、考察を重ね、その結果を対人援助学会で発表することを目標にした。データは3年分集めてまとめる予定。アンケートの内容は後に詳しく掲載予定。

◆最初に困ったこと

会場探し

講師もプログラムも決まったのだが、最初の課題は会場探しだった。京都市内だと貸し会場の費用が高く、特に日曜日の予約は、他の団体と競合することになりくじ引きなどになるため、安定した授業日程が組むのが難しかった。また、ほとんどの家族が子どもと一緒に参加するので、電車より車の利用率が高く、京都市内だと車で参加する家族の駐車料金の負担が大きい。さんざん迷ったのだが、初回の参加者は京都府南部から参加する家族ばかりだったので、京都府南部にある公共のコミュニティセンターを借りることにした。ここならば駐車場は無料で、電車で参加する家族には講師が最寄の駅まで送迎することにした。しかし、いくら郊外とはいえ、日曜日は他の団体と競合になるのは同じで、しばしば日程を変更せざるおえない場合もあり、それは現在でも大きな課題となっている。

スケジュール調整

月に一度とはいっても、家族全員がスケジュールを合わせられるのは子どもが小学生以下に限定されてくる。小学生以下でも卒園式や親せきの行事、子ども会などと重なると毎回参加するのが難しい状況になった。中学生以上になると部活や塾なども重なり、毎回の参加は難しい。また思春期になると反抗期ということも影響して、親が説得して連れてくるのも難しくなった。会場の広さで考えれば4家族が限界だったが、4家族が全員揃うことはまれであった。毎回どこかの家族か、家族メンバーの誰かが欠席となる。講師のスケジュール調整も大変だった。みんなそれぞれ本業があるので、どうしても都合がつかない日もある。それらは講師がお互いの授業時間を交換しながら乗り切るしかなかった。

運営費

いくら節約しても全く費用がかからないということはない。講師は全員ボランティアで報酬なし。しかし、会場費、告知にかかる費用、教材費用に関しては最大限節約しても費用が発生する。朝から準備を始め、一日拘束される講師の食事代や交通費も一切なし。営利目的ではないので、講師はみんな納得していたのだが、長期になるとその負担が重なり、大きな課題となった。

(次回に続く)